

■ アジアパシフィック地域の建築塗料市場:コロナ禍前、渦中とその後

オールアンドボース・コンサルティング社(Orr & Boss Consulting Incorporated)の Douglas Bohn 氏による

アジアパシフィック地域の建築塗料市場のレポート

世界の人口の 50%以上と世界 GDP の三分の一以上をカバーするアジアパシフィック地域の建築塗料市場は大きく、多様である。2020 年のアジア建築塗料市場は 26 億米ドル、世界の塗料市場における最大の地理的分野である。アジア地域の建築塗料はまた、世界でも最も成長の早い地域でもある。アジアという地理的に幅広い地域では、国の違いや市場の需要の違いによる多様性に富んでいる。その大きさ、成長速度、多様性により塗料製造業者にとって魅力的な市場となっている。

■ アジア建築塗料市場の概要

アジア建築塗料市場規模は 260 億ドル、1170 億リットルと推定される。Orr & Boss ではこの市場を大きく 5 つの地域に分類している。中華圏、日本と韓国、南アジア、東南アジア、オーストラリアとニュージーランドである。この地域はそれぞれ個々の高 2 に細分化することができる。

中華圏: 中国本土、台湾、香港とマカオ

日本・韓国: 日本、韓国

南アジア: インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ブータン、アフガニスタン、モルジブ

東南アジア: インドネシア、マレーシア、タイ、ベトナム、フィリピン、シンガポール、ミャンマー、カンボジア、ラオス、ブルネイ、東ティモール

ANZ: オーストラリア、ニュージーランド、太平洋の島国

上記 5 地域では中華圏が最も大きく、アジア市場の半分をやや超える程度を占める。南アジアが次にくる。図1と2に市場の分類の概要を示す。

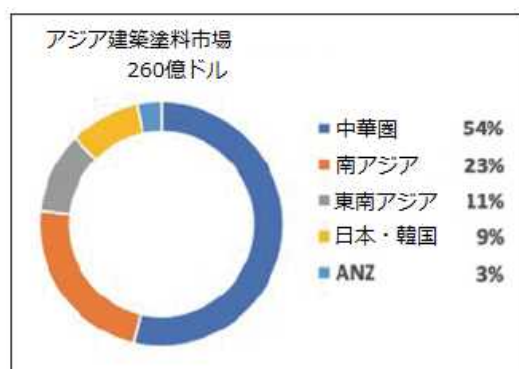


図1. 地域別分類



図2. DIYと業務用の比率

■ 市場分野

アジア建築塗料市場におけるDIYの割合は約15%。これは建築塗料市場の40-50%を占める北米やヨーロッパと比較すると少ない。DIYの市場における割合は大きくことなり、中国、インドと東南アジアの一部の国では10%以下である。日本と韓国ではDIYは市場の20%に近い。オーストラリア、ニュージーランドでは欧米に近く市場の50%がDIYである。

業務用市場については、ほとんどの塗料が住宅塗装向けである。商業ビルにより相当量の塗料が使用されている地域もあるが、全体的には市場の約70%が住宅用である。

■アジアの建築塗料市場に対するコロナウイルスの影響

世界中の塗料業界と同様、コロナウイルス感染症はアジアの建築市場にも大きな影響を与えた。影響の度合いは市場の地域により異なる。図3では2019年、2020年と同時の2021年予想の成長率を示している。

2019年-2021年の各地域の推定市場規模は表1に、また各地域の個々の小分類市場について下記にまとめた。

	Greater China		Japan & Korea		South Asia		SE Asia		ANZ		Total Asia	
	Volume (Mlit)	Value (US\$M)	Volume (Mlit)	Value (US\$M)	Volume (Mlit)	Value (US\$M)	Volume (Mlit)	Value (US\$M)	Volume (Mlit)	Value (US\$M)	Volume (Mlit)	Value (US\$M)
2019	4642	13,477	546	2,499	4181	6,239	2134	2,956	169	803	11,672	25,973
2020	4806	3,952	524	2,423	4,062	5,990	1,963	2,779	175	839	11,530	25,983
2021	5094	15,068	550	2,593	4,469	6,709	2,120	3,056	179	873	12,411	28,299

表1 注：数量は百万リットル、金額は百万USドル

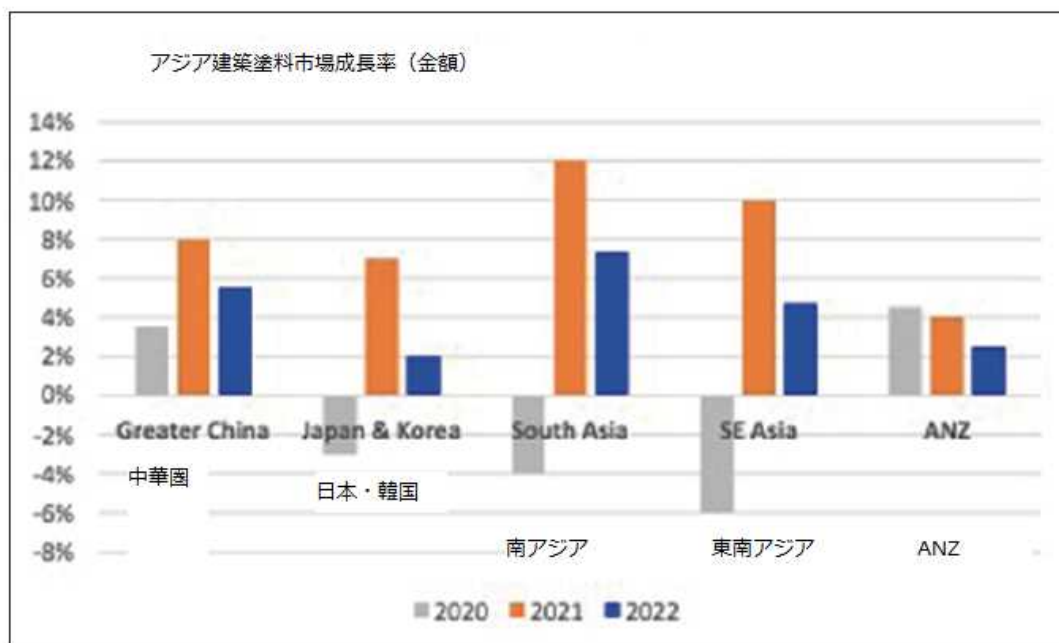


図3：市場の5分類別成長率

■中華圏

2020年の中国の建築塗料市場は好調と不調を経験した。当初楽観的に始まったが1月末にはコロナウイルスの重大性が明らかになってきた。ロックダウンが開始されると第1四半期には近年例を見ないほど大きく下落した。しかし、ロックダウンが終了すると需要は第3、第4四半期に回復した。2020年の中国の建築塗料市場は結果的に金額で3.5%上昇したとみている。2021年の中華圏の建築塗料市場は棋院額で8%上昇すると予想している。

■南アジア

南アジアはアジアの2番目に大きな建築塗料市場で60億ドルと推定される。インドをはじめとする南アジアの国々は大変に厳しいロックダウンが実施され、建築用塗料の販売額も激減したが、下半期には力強い回復をみせた。2020年通年では建築用塗料の販売金額は4%現象した。

2021年には抑圧されていた需要が強く戻り、販売額の成長率はコロナ前の水準、年10%以上に戻るものとみている。しかし、パンデミックがもたらした不景気と経済的に厳しい状況により、市場がより経済的、または安価な塗料への転換が加速している傾向がみられる。

■日本と韓国

日本と韓国はアジアの建築用塗料市場では、一番価格が高い。昔から成長率の高い市場ではないが、比較的価格が高く、24億ドル規模であることに興味を引かれる。2020年、市場は3%下落したが、力強いGDP成長率が期待されることから、今年は回復を予想している。

■東南アジア

この地域の建築用塗料市場は2020年に6%減少したが2021年は力強い回復を期待しており、全体的に販売額は10%増えたと予想する。南アジア同様、第2四半期の市場は大きく下落し、下半期に回復、2020年に抑圧された需要が満たされている。また、これも南アジア同様にパンデミックがもたらした経済的に厳しい状況により、市場がより経済的、または安価な塗料への転換が起きた。

■オーストラリア、ニュージーランド

オーストラリア、ニュージーランドの建築用塗料市場2020年に4%以上増加した。この地域の人々がステイホームにより旅行をせず、自宅の改修に力を入れたため、DIY塗料販売が恩恵を受け、DIY分野が大きく伸びたことが主な要因である。同様の傾向が欧米でも見られた。

■市場動向

市場では何点かの主な傾向がみられる。第一に当然、抗菌・抗ウイルス塗料への関心と強い需要がある。この現象は塗料の全分野で見られるが、特に建築用塗料で顕著である。日中多くの人々が利用する商業ビルは特に抗菌・抗ウイルス塗料に適した場所である。また抗菌・抗ウイルス塗料の住居への適用も大きく増えている。もう一つの興味深いトレンドは内装用の特殊効果やおしゃれな塗料に対する関心が高まっていることである。人々が自宅で過ごす時間が増えたことで、室内で過ごす場所に変化をつける方法を求めており、少し変わった色、特殊効果、質感の出せる、個性的でおしゃれな塗料の人気が高まっている。

最近の傾向として最後に挙げるのはDIY分野の増加である。上述の通り、アジアにおけるDIY市場は欧米ほどの規模ではないにしろ、確かに存在している。DIY市場が強い国、特にオーストラリアとニュージーランドでは、家にいる時間が平時より増えた人々が自宅の改装に力を入れ、DIY塗料の販売上昇につながっている。

■原材料

全体的に、今年のアジアの建築用塗料の販売は比較的好調になると思われるが、世界の他の地域と同様、原材料は供給不足で価格が上昇している。主な要因は需要の大きな転換にある。2020年、販売の減少により在庫を削減させ、製造を縮小した。需要が急に回復したことによりサプライチェーンは在庫を確保する必要が発生し、品不足と価格上昇につながった。今後数カ月で供給と価格状態が落ち着くことを期待しており、現在業界が直面している原材料不足と価格上昇は第3、第4四半期には落ち着くことを期待している。

■最後に

アジアの建築用塗料市場は大きく、多様な市場である。世界の塗料業界における単一で最大の地理的区分である。その大きさと多様性により塗料メーカーにはたくさんのチャンスがある。中国、インド、日本といった大きな市場はもちろん、ベトナム、インドネシア、マレーシア、バングラデシュなど、まだ成長の余地がある市場にもチャンスがある。また、アジアの建築用塗料全体として世界の平均より早い成長率を示しており、特に南アジアと東南アジアは急成長している。このような要素により、アジアの建築用塗料市場は世界の塗料業界の中でも最も魅力的な市場の一つであると考えられている。

Douglas Bohn, Orr & Boss Consulting Incorporated

Email: dbohn@orrandsboss.com

Website: www.orrandsboss.com